

第3回こどもの権利推進リーダー会議の実施結果について

実施日 令和7年4月15日(火)・16日(水) 18時から19時30分まで
会場 文京シビックセンター5階区民会議室C

1 参加者

2日程に分かれて実施し、区内の中学生6人、高校生47人の合計53人が参加した。

	中学2年生	中学3年生	高校1年生	高校2年生	高校3年生	合計
人数	4人	2人	4人	15人	28人	53人
割合	7.5%	3.8%	7.5%	28.3%	52.8%	100.0%



こどもの最善の利益

こどもにとっては、

意見がともらなかった場合も含めて

「自分を大切に考えてもらった結果だ」

と感じられていることが大切！



11

2 内容

「こどもの最善の利益」や条例の仕組みについて共有した後、グループで意見交換を行った。

テーマ1 「自分を大切にしてもらっている」と感じるのはどんなときですか？

テーマ2 先行自治体(A区、B市)の条例前文を読んで、
感じたこと、考えたこと、いいなと思ったところは？

※各グループの記録については、東洋大学の学生にご協力いただいた。

3 当日の様子

参加者はグループでの意見交換や発表に慣れてきていて、積極的に参加していた。
自分の体験をふりかえりながら、こどもの最善の利益について考えるとともに、
先行自治体の事例研究を通じて、条例についての理解を深めた。

条例とは

(仮称) こどもの権利に関する条例

= 理念条例 行政の基本的な考え方、
姿勢や枠組みを示す

理念条例

条例・規則・要綱 事業計画

具体的な施策

14



4 参加者の意見

「自分を大切にしてもらっている」と感じるとき	
1	何かをして「ありがとう」と言われたとき
2	自分の機嫌が悪い時でも面倒だから放置せず、話を聞いてくれたとき
3	検定を受けさせてもらったこと。検定や習い事はお金が結構かかってしまうのに受けさせてくれて大切にされていると思った。
4	先生に「あなたらしい独特さを大切にしてください」と言われたとき
5	進路の相談にのってくれるとき

6	自分のやりたいことに「いいよ」と言ってくれて応援してくれたとき
7	やりたいことを見つけて親に相談したところ、相談から3日ほどたってから様々な角度から提案をしてくれて、沢山調べてくれたんだなと思った。
8	相手が自分に時間を割いてくれたとき
9	志望校決定のときに、親は自分の意見をしっかりと聞いた上でアドバイスをしてくれて、話しあった結果、認めてくれたこと
10	進路について話したこと
11	帰りが終電近い時間になってしまったときに迎えにきてくれた。
12	お金をかけてもらっていると思うと大切にされているなと思う。
13	学校で班決めが難航していたときに、先生が時間で区切らず、改めてみんなで考える時間をつくってくれた。
14	親がお弁当を作ってくれるとき
15	中学校に行くとき、どんな中学校に行きたいか、どんな部活に入りたいかを考えさせてもらった。
16	体調を崩した際に気にかけてくれたとき
17	帰りが遅いと心配してくれたとき
18	親が自分の進路を自由に決めさせてくれたとき
19	したいことをさせてくれるとき。(例)吹奏楽部に入って楽器を吹いたり
20	「ほしい」といったら買ってくれるとき
21	相談したことに真摯に向き合ってくれたとき
22	両親が進路のことなど、道に迷わないように導いてくれるとき
23	なにか愚痴を言うと目を見て話してくれるとき
24	学年主任の先生が、他学年の先生に反対されながら、自分たちのことを考えてくれて、私たちの利益になる活動を行ってくれたと聞いた。そのときに、嬉しい、大切にしてもらっていると思った。
25	塾はダメといわれていたけど、親に思いを伝えたら、たくさん調べて塾に入れたこと
26	作るのが大変なからあげを作ってくれたときや、自分は仕事で朝家を出るのが早くても、朝ごはんを弁当作ってくれたとき。帰ってくるのが遅いときに連絡してくれたとき
27	受験で自分は第一希望のところで頭がいっぱいで他のことに手が回らなかったときに、塾のことなどをいろいろ調べてくれて、影でいろいろ支えてくれた。
28	親戚とのつながりが強く、親戚と会うときに、遠いつながりのはとこでも自分のことをよく知っていて、たくさん話をしてもらえたときに、大切にされていることを実感した。
29	友達に自分の話を聴いてもらったとき。その友達にとってはどうしてもよいことをくっちゃべっても聞いてくれる。
30	自分は自分のことをあまりしゃべらないけれど、よく親が心配してくれる。そういう親のことを面倒に思うときもあるが、自分のことを考えてくれていると思う。
31	中学までは進路について助言をあまりもらえなかったが、今の高校の先生は、話を聞いてくれるし、アドバイスもくれる。
32	自分の進路に関心を持ってもらえるとき。3人兄弟だが、大学は？塾は？など、3人偏りなく聞いてくれる。誕生日や合格祝いなどのお祝いをしてもらったとき。
33	習い事やこの「こどもの権利推進リーダー」など、やりたいことについて「いいじゃん」と言ってくれたとき。また、塾は高いし、私立に行っているからお金がかかるのに、やらせてくれるとき。部活の発表を見に来てくれるとき。高いプレゼントをくれるとき
34	部活でうまくできなかつたので落ち込んでいたときに、後輩がお菓子をくれたりして、みんな優しいなあと感じる。
35	褒めてくれたとき。大切じゃなかったら褒める感情を出してくれないと思うから。
36	親と意見がズレていたときに、代替案を出してくれたときはありがたいなと思った。

37	自分のやりたいこと(進学先、欲しいものなど)の意見を聞いてくれたとき。進学先を調べてくれたり、本気で自分に向き合ってくれていると感じる。
38	栄養バランスのいい食事を毎日出してくれる。毎日ご飯を作ってくれてありがたいと思う。
39	学校生活の悩みを聞いてくれたとき
40	幼い時の動画を見たときに、かわいいとたくさん言ってもらえたこと
41	塾の送迎をしようとしてくれたとき
42	連絡をせずに帰りが遅くなったときに、家の前でずっと待っていてくれた。
43	進路の話を聞いてくれた。
44	進路についての選択をある程度自分に委ねてくれたこと
45	友達がわざわざ自分のところに来て話してくれたりすると、大切にされていると感じる。
46	教材や勉強にかかる費用を出してくれる。
47	相づちしたり目を見ながら話をしてくれる。自分の感情に共感してくれる。
48	体調を気にかけてくれる。褒めてくれる。
49	自分の意見や考えを尊重してくれる。
50	自分の将来についてしっかり考えてくれたとき
51	風邪をひいた際に看病してくれたとき。中学受験をさせてくれたこと。自分の好きな料理を作ってくれたとき
52	相談をする前から察してくれているときや話を真っ向から否定されないとき
53	自分の気持ちに寄り添って、汲み取ってくれるとき。目標を応援してくれるだけでなく、一緒に頑張ってくれるとき。夜遅くまで相談に乗ってくれるとき
54	ちゃんと叱ってくれるとき。迷子になったらすぐに警察に行ってくれたとき。タブレット購入の交渉の際、お互いにWinWinな話し合いをしてくれるとき。門限を決めてくれるところ
55	進路の話をしているとき。大切にされているんだと実感することができる。
56	門限が早いこと。最初は不満だったが、大切にされているからこそ門限が早いのだと気付いた。
57	受験の相談をした際に、行きたいところに行っていていいよと言われた。自分の意見や希望を尊重して貰えていると感じた。
58	ピアノの習い事をしたいと伝えたら承諾してくれたこと
59	進路の相談をしたとき
60	進路の相談をしたとき。一緒に調べるのを手伝ってもらった。
61	習い事をやらせてくれた。
62	進路の相談をした際に受け入れてくれたとき
63	帰りや夜ご飯について心配してくれたとき
64	悩み事や自分自身が感じているわだかまりを真剣に聞いてくれた。
65	受験など自分のやりたい事を優先してくれた。親が「スケジュールとか時間は大丈夫か」と細かいところまで気にかけてくれている。
66	間違ったことをしてしまったときに両親や先生が違うと教えてくれた。
67	テストの成績などでほめてくれた。
68	高校受験の時に献身的にサポートしてくれた。お父さんが練習で面接官をしてくれた。

69	毎日美味しいご飯を食べさせてくれる。
70	家出をしたら割と本気で探してくれた。
71	誕生日にケーキを買って祝ってくれた。
72	毎日お弁当を作ってくれる。
73	何かをしたいときに話を聞いてくれる。一緒に真剣に考えてくれる。
74	送り迎えなどをしてくれるとき
75	進路のことを相談したときや、自習をしている際に親身になって聞いてくれるとき
76	誕生日を祝ってくれたとき
77	テストの結果や部活のことなど良かったことを良かったとしっかり褒めてくれるとき
78	ご飯を作ってくれる。当たり前のことと感じているかもしれないけど、当たり前じゃない。
79	友達が誕生日プレゼントをくれるとき
80	1番風呂を譲ってくれるとき
81	学費を払ってくれるとき
82	校則の改正のやり方を先生に相談したら、一度改正すると変更が難しいと教えてくれて嬉しかった。自分の意見を聞いて考えてくれたと思えた。
83	親がたわいのない会話を覚えてくれているとき。学校の話聞いてくれていると関心を持ってくれていると思えた。
84	欲しいものを覚えてくれていて嬉しかった。
85	親がやりたいことを尊重してくれた。
86	学校の海外プログラムや部活動など、やりたいことを尊重して惜しみなくやらせてくれるとき
87	中学のころまで親の職業を知らなかったけど、それは自分を守るためでもあったと知った。
A区の条例前文を読んで感じたこと、考えたこと	
1	子どもたちからのメッセージの文末が「～ほしいです」というのが良いなと思った。
2	区からのメッセージはいるのかが気になった。そもそも条文は区が考えたもので、区の考えのようなものだから。
3	子どもが「幸せを感じます」と言っていることは大人にももちろん共通すると思うが、それが改めて書いてあるのがいいなと思った。「～ときに幸せを感じます」が繰り返し書かれているのが良いと思った。
4	子どもたちからのメッセージに具体的な例が挙げられているのがいいと思った。
5	子どもからのメッセージを見て、意見を潔くハッキリ言っているように感じられた。自分はまだ、大人に伝えることができていないと感じた。
6	「子ども→ほしいです」「大人→努力します」 不平等では？？お互いに歩み寄るスタイルが必要。大人の努力するスタンスが嫌。もっとフェアであるべきだと思う。こどもが上の立場になりすぎだと思う。
7	「大人と子どもで共に笑い合える時間がほしい」→親の時間が減る。親の権利は？親も忙しいのに親の権利が守られなくなってしまうのではないか。
8	誰が書いたメッセージ？
9	区と大人の違いが分からない。区も大人
10	大人からの思いとは？
11	大人も「～したい」とか「～してほしい」とかあるとよいのではないか。

12	こどもと大人のメッセージがそれぞれ一方的に言っただけになっている。掛け合いができていない。
13	「こうやって決めました」と一文あってもよいのではないか。
14	A区のはきれいごとすぎる。
15	タイトルに「幸せ」が入っているが、押しつけがましい。「幸せ」だけが全てじゃない。
16	A区のは自分の意見を聴いて感が強い。
17	大人からのメッセージの「子どものみなさんに関わるよう努力します」とは、どういった意味？
18	主体性がないと難しい？
19	「こどもの権利」 そもそも誰あてに伝えたらいいの？
20	くり返し挑戦できる環境って？
21	子ども・大人・区からのメッセージがあるところが比べやすいし読みやすい。
22	「言いたいことをうまく言えないときがあります」がめつつちゃ共感。
23	子どもがして欲しいことをしっかりと伝える形になっている。
24	大人と子ども2つの視点からのメッセージがある。
25	権利があることは当たりまえだと思っていたが、改めてそのありがたみを感じた。
26	「私たち子どもは～」という形に統一することで分かりやすくなっている。
27	きちんと子どもの意見(したいこと)がはっきりと書かれている。
28	「子ども」「大人」「区」といった様々な視点から条例について述べられている。
29	子どもにも様々なタイプや性格があるということを前提に書かれていて、すべての子どもが対象になっているところが良いなと思った。
30	子どもの願いに対して大人のみなさんが、見守る形をとって良いなと思った。
31	「私たち子どもは～」という書き出しが良い。
32	子どもから見て、見やすい文面となっている。
33	誰に伝えたいかが明確でないように感じる。
34	「子どもの皆さんに関わるよう努力します」という文言がどういう意味か分かりにくい。(具体性がない。)
35	もともと持っている権利だけでなく、新しいものもあると感じた。子どもだけでなく、大人や区の権利があって、皆で作っていると感じた。
36	子どもたちのメッセージで守られる権利が具体的に書かれている。
37	「一人ひとりに合わせた応援」というところが、子ども自身を認めていると感じた。
38	「挑戦できる環境」について、環境づくりのベースは親だが、学校でもやれることがある。この条例は学校にも適用されるのか疑問に思った。
39	誰からのメッセージなのかがしっかりとっていて、悩むことがないと思った。どんなことをされたら幸せか、大切にしてほしいことが具体的にになっているところが良い。子どもが主体だが、やってほしいこともちゃんと組み込まれている。
40	大人からのメッセージで、こどもの視点に立っている。難しい言葉が多いが、安心できた。条例に関わった人だけでなく、読む人のことがちゃんと意識されていると思った。
41	ここには努力を認めてほしいとあるけれど、「失敗を恐れず」ということは、失敗したときにも認めるということだと思う。失敗したときにも認めて欲しい。大人と子どもがともに笑い合える、話し合える関係って素敵だなと思う。
42	子どもだけではなく、大人や区も幸せになれるのが良いと思う。

43	子どもの幸せが第一に考えられているところが良いと思う。子どもの願いという形が、大人に対して高圧的な態度でなく、優しい感じがする。
44	子ども、区、大人の3つの視点に分けているところが良い。大人の独りよがりではないと感じた。
45	子どもの視点から大人にやってほしいことを具体例を添えて書いているところが分かりやすいと感じた。
46	文章の構成が同じなので読みやすい。
47	大人へのお願いが多いことが気になった。大人にして欲しいことだけでなく、子どもは何をするのか(自分の意見を言ったりなど)も書いて欲しい。子どもたちがどういうアクションをとりますというのがあると良い。
48	「～してほしい」「～していきます」など、口調が堅苦しくなくて良い。
49	色々な立場からのメッセージが良い。権利がある！だけでなく、支えられていることを感じられる。
50	子どもからの主張を書く際の書き始めの形式、表現を統一しているのがいいと思った。
51	区が一体となって取り組んでいるのが感じられる。
52	大人がどうすべきかが伝わりやすいのがいいと思った。子どもが中心となって取り組めている。
53	子どもの意見が明確に記載されている上で、子どもと大人の片方ではなく双方の視点が記されていていいと思った。
54	最後に区が大人への呼び掛けをしてくれているため、メッセージ性が強くなっていると感じる。
55	子どもからのメッセージは子どもから聞いたのかもしれないが、大人サイドはこの条例を知らない人多そう。前向きな意見が大人側の意見として記されているけれど、本当にそうしてくれるのだろうか。
56	大人と子どもでそんなに違う言葉を使ってるわけじゃないと思うが、条例の子ども側の意見の方は内容(書き方)が少し幼稚な感じがする…？本当に対等に取り合ってくれてるのか？
57	「私たち子どもは～」から全て始まっていて見やすい。大人から子どもに対して、してほしいことが書かれている。
58	大人と子どもお互いの意見が書かれている。
59	ひと段落ごとに言いたいことがまとめられていて分かりやすい。
60	状況と対応が分かりやすい。段落1と3が似ているため、変える必要があるように感じる。「～しよう、～したい」だと条例がまだ無いものみたいになっている。
61	声を上げよう！という姿勢が伝わってくる。プラスなことだけでなく、子どもが大人に対して苦勞したポイントも書くべき。
62	具体的かつ大人・子ども・区と様々な視点があることが良い。
63	子どもの声明がいちばん最初に書いてあるため、子どもに重きを置いていることが伝わった。
64	立場ごとに分けられているため、明確な視覚化ができており分かりやすい。
65	大人からのメッセージが少ない。
66	実際のメッセージをありのままに書いており良い。
67	抽象的な文がない。
68	子どもの権利は守られているが、子どもの権利を広げるという意識が感じられなかった。
69	「～ときに幸せを感じる」や「～してほしい」という言い回しが温かくて良いと思った。
70	「私たち子どもは～」という文の書き出しが印象に残った。誰にでも読みやすいように書かれている。
71	生きることや安全について、きちんと書かれていて良い。
72	小さな幸せが一番大切だなと感じたし、子どもだけでなく大人の方も重要だと感じた。
73	子ども、大人、行政の三つの視点があって面白い。

74	子どもからのメッセージだけでなく、大人からのメッセージがあることに驚いた。
75	メッセージが話し言葉で分かりやすい。
76	子どもが一方向的に主張しているため、大人は受け入れて当然という印象を与えてしまう。受け入れるだけでなく話合いも取り入れるべき。
77	大人にやってもらうことが当たり前という感じがして、そうしてもらうことに対する感謝を忘れてしまいそう。
78	「～してほしい」というお願いしか書かれていない。「～してほしくない」項目も入れるべき。
79	小さいこどもから大きいこどもまで幅広い年齢が見られるものになっていて、良いと感じた。
80	文中に「大人の皆さんには子ども同士や大人と子どもで共に笑い合える空間を作してほしいです」という文章があるが、なぜ子ども同士といった言葉があるのだろうか。団体として見られてしまっているような気がする。また、これは大人に作ってもらうのではなく、みんなで作るものなのではないかと個人的に思った。
81	幅広い年齢が見られるものだと感じた。
82	「私たち子どもは、言いたいことをうまく言えないときがあります」といった文章はとても重要で良いと思った。
83	こどもの権利条例の前文と聞き、堅いイメージを持っていたが、このような文章だと見やすいし、手に取りやすいと感じた。
84	小さい子も手に取りやすく見やすい文章で、「～してほしい」などと書かれているため、頭に入りやすいのではないかな。
85	この文章を読み、子ども扱いされすぎでは？と感じていたが、確かに小さい子どもなどを対象として入れるのであれば、この文章の方がいいと納得した。
86	このA区の前文は「幸せ」がメインテーマなのではないかと考えた。
87	文中に「私たち子どもの話にしっかりと耳をかたむけ、ありのままの私たちを受け入れてほしいです」とあるが、耳をかたむけ受け入れるだけではなく、「対等に話し合う」を加えたら、より良くなるのではないかな。
88	健康や虐待から守るといったことも含めて、命を守るべきといったような文章があってもいいと感じた。
89	小さい子どもも読みやすいと感じた。
90	権利を受け入れるというのは全肯定すぎないかな。対等ではないと感じた。
91	小さいこどもも手に取りやすいが、だからといって小さいこどもにフォーカスされすぎではないかな。
92	「～してほしい」は他力本願すぎる。
93	行動が大人にフォーカスしすぎている。これだと「こどものすることを全肯定してください」といったような文章に見えてしまう。
94	全体の構造が子どもにも読みやすいところが良い。
95	メッセージが分けられていて、明確に提示されている構成なのが良い。
96	もっと長くしてもいい。
97	子どもから大人、大人から子どものように、自分だけで完結していないところが良いと思った。
98	抽象的だけど、「～ときに幸せを感じます」というような例があるのは良いと思った。
99	「挑戦できる環境」というところと、「一人ひとり、やりたいことやできることがちがいます」という所は良いと思った。これが正解とかはないので。
100	当たり前ではあるけれど、個人を尊重していることが伝わって良い。
101	「ありのままの自分を受け入れてほしい」というところに着目した。子どもは気持ちとか言いたいことを大人の顔を伺って言えないことが多いけど、この前文からはその不安がなくて良い。
102	区や大人からのメッセージがあるのが良い。
103	大人はたくさんいるから、先生なのか、親なのか、視点をわかりやすく分類した方がいいと思う。

104	優しい言葉で書いてあるので、小さい子どももわかりやすい。
105	子どもからのメッセージが一人称視点で書かれていて良い。
106	子どもからのメッセージは長いけど、大人からのメッセージが少なくて、柔らかい印象がもっとあればいいと思う。冷たい印象を感じた。
107	小学生にもわかりやすい文章にした方がいい。大人から子どもへの思いやりがないと感じる。
B市の条例前文を読んで感じたこと、考えたこと	
1	「おとなと子どもは、お互いの権利を理解し尊重し合うことで、それぞれのを守ります」が、きちんと相互の関係まで考えられていて良いと思った。
2	おとなの権利とは
3	大人の意見がまとまっている。
4	「～できます」というより「～したいです」といった感覚な気がする。「～したい」のほうが気持ちが伝わってよいと思った。
5	「子どもは～」と連発しているが、子どもも大人も一緒というのを表してほしい。
6	かたい。
7	子どもの範囲によっては分からない言葉がある。
8	「わたしたちは、不安に感じたり、なやんだり、困ったりしたときに、信頼できる人がいる場所で、相談したり、助けを求めたりすることができます」→できない人もいるのでは？
9	私たちが条例の前文を書く際には、大人、区からのメッセージは必要？
10	A区とは違って、「～できます」「～願います」となっている。
11	「～を望みます」という表現が素敵な気がする。
12	未来のことについて考えて書かれている。
13	ひらがなと漢字が混ざっている。
14	A区に比べて、文体がかっちりしている。権利が強調されている。
15	「願い」という言葉を使うと伝わりやすい？
16	「子どもの権利条約に基づき、市民とともに、子どもの最善の利益を尊重する社会の実現を目指し、この条例を定めます」といった表現があり、趣旨が分かりやすい。
17	子ども側の意見で、大人の方々に協力や支援を求めている。
18	子どもから町(区)に向けて書かれているなど、伝えたい先が明確。
19	漢字とひらがなの使い分けが独特で疑問を感じる。
20	自分たちが作ると考えたときに、大人や区からの返信が欲しいかということになる。
21	「未来」とか「将来」という言葉が多いので、こどもからみるとプレッシャーになるのでは。
22	「～できます」と断言しているのが気になる。
23	子どもたちの言葉を使っているのが良いと思った。しかし、具体的に何をしたら良いのかが分かりづらく、大人と子どもの意見がすれ違うのではないかと感じた。
24	「すべての子どもには、ひとりの人間としての権利があります」というセリフが素適だと感じた。「ひとりの人間」や「まちの一員」とであると表現していて素敵だなと感じた。
25	「おとなと子どもは、お互いの権利を理解し尊重し合うことで、それぞれの権利を守ります」としていて、おとなの権利にも少し触れられていたのがA区と違うと感じた。
26	「子どもには無限大の可能性があって自由」というのが、自分自身を認められている感じがして素適だと思った。一方的に子どもの権利を主張するのではなく、大人にも同じく権利があるというのを主張されていて、立場は違うけれど互いに尊重してくれている感じがして良かった。

27	「私たち子どもは～」という部分は分かりやすくて良いが、本当に子どもの言葉なのか？という疑問を持った。大人が作った文っぽい。
28	A区と比べてしたいことがわかりやすくて良いと思った。何をやるか、目指すかが書かれていて良いと思う。
29	誰に聞いて作ったのか、何人に聞いた意見なのかが疑問に思った。
30	子どもが暮らすまち、優しいまちといっても、公園でボール遊びが禁止されていたりする。条例に書いてあっても具体的に実現しなければ意味がないのでは？
31	「権利があります」から解像度を高めていっており、抽象→具体という構造で読みやすい。
32	達成像(ゴール)が提示されており、大人も子どももすべきことが明確でわかりやすい。
33	文章が長く、読む気になれない。
34	子どもができること、そのためには何をすればよいのか、何が必要かが書いてあり、話の流れが良い。
35	文字にすると読みにくい。数字を振るとかすると読みやすい。
36	未来についてカッコいい言葉があって、読んでいて面白い。
37	A区と比較して、大人の意見もあって行動しやすそう。
38	子どもができる行動が書いてあるところが良い。
39	未来への可能性についてたくさん書いてある。その実現に向けてのところがあって良いと思う。
40	「愛されて育つことが大切です」が良いと思った。
41	「～を望みます」は主体性を感じない。「～していきます」とか、主体性がある表現の方が良いと思う。
42	子どもへの配慮と大人への主張や協力をお願い(必要なこと)を明確にした書き方をしている。
43	「～されます。」などの言い切りの形(断定)でより力強さを感じる。一方で、A区より文の羅列が多くて、読みにくい印象を与えるかも…。
44	断定することで、しっかり権利が守られる感じがする。子どもの言葉を最後にすることでわかりやすい。
45	子から大人への歩み寄りがある。言い回し(表現)が「～してほしい」よりも言い切ることで無力感を感じさせない。
46	「できます」と断定しきるのも…。全ての人が出きるわけじゃないし、プレッシャーに感じることもあるかも…。
47	「これらの願いが届くようなまちであることを望みます」という最後でまとまりがでている。
48	後半が改行だらけで読みづらい。
49	「～必要です」「～守ります」などの断定の語尾があり良い。一方的な文ではなく、お互いに感が伝わってくる。
50	お互いの権利を主張していて良い。「～してほしい」ではなく、「～願います」にしている、言い方によって深みが出ているし、より切実さが増している。「私たちだけではできないこともある」という文から、可能性を見出すために協力し合おうという気持ちが伝わってくる。
51	子どもだけが行動を起こすのではなく、大人が協力することがマストであると書かれているのが良い。見た感じ読みづらい。
52	大人からのメッセージがない。
53	区からのメッセージが抽象的
54	もっと生の声を反映させて欲しい。
55	「子どもが育つ町」というフレーズからサポートをする意欲を感じる。
56	大人からのメッセージがない。
57	「～を望みます」という言い回しがふわってしており、客観的になってしまっている。
58	具体的な部分も抽象的な部分もどちらもある。

59	立場分けがない。
60	大人からのメッセージがない。
61	子どもからのメッセージも少ない。A区と比べて子どもらしさがない。
62	文章がかたい。
63	A区のように視点を増やすべき。
64	視点を分けて書く場合は、文量は同じ量にするべき。
65	実生活でイメージしやすいものかつ共感が得られる内容にした方が良い。
66	導入を子どもからにした方がいい。
67	立場を明確にし、生の声を書くべき。
68	タイトルにも気を配るべき。
69	子どもからのメッセージは子どもらしくした方が良い。
70	子どもたちからのお願いだけでなく、子どもたちができることについても記載されている点がいいなと感じた。
71	「大人」が「おとな」と表記されていて、子ども目線だなと思った。
72	「～してほしい」という丸投げ感がなくていいと思った。
73	「おとなと子どもは、お互いの権利を理解し尊重しあう」という部分が、A区と比べて、おとなと子どもがそれぞれの立場から歩み寄るイメージがあっていいと思う。
74	子どもも大人も同じ一人の人間という感じで、「子どもばかりを尊重しろ」という感じがなくていいなと思った。
75	若干読みにくい。
76	ただ大人や区からの視点の文を書くよりも、子どもの意見などを分かりやすく載せたほうが良いと感じた。
77	誰からのメッセージか分からない。
78	こっちの方が幼すぎないため個人的には好きだと感じた。
79	自分たちこどもにできること、やってほしいことがしっかり書かれていると感じた。
80	「おとなと子どもは、お互いの権利を理解し尊重し合うことで、それぞれの権利を守ります」と書かれていることが、子どもだけでなく大人も含まれていて、対等を書いてあると感じた。
81	「大人は子どもに」的な文章が多く、大人が疎かになってしまうのではと考えていたが、文中に「それぞれの権利を守ります」と書いてあり、対等だと感じ、とても良いと思った。
82	個人的に「～します」という語尾が「できます！」的な文章に見えて、とても良いと思った。
83	文中に「願う」「望む」という言葉がいくつかあり、とても他力本願に感じた。一緒に頑張る的な文だと、より良いのではないかと考えた。
84	「大人と一緒に」やお互いに尊重し合う感じがでていて、個人的にはとても良いと感じた。
85	言い切る表現が多い。
86	条例を守るという意志を感じつつ、難しいような印象も持つため、良い面と悪い面があると思った。
87	必要でないところではひらがなにして、難しい漢字を多用しないのが良い。
88	「～できます」という書き方で揃えていて良いと思った。
89	子どもが求めていることに対して、ニュアンスで答えているのも良い。

90	「すべての子どもは、どのような理由によっても差別されず、安心して他の人々とともに生きることができるよう、その権利と尊厳が守られます」のところが、学校だったらいじめとかがあるから完全にはないとはいえないけど安心できる。
91	A区と比べて前文で大人の視点で語られている。子どもからして、「幸福感が高められる」とは何だろうと思ったし、かたいイメージを持った。
92	「やさしい」という表記がひらがなだったのが温かみを感じた。
93	A区より子どもっぽいと思った。
94	箇条書きっぽいのが、つながりのある言葉になっていて、説得感が増している。
95	「わたしたち」がひらがなだから、性別関係なく、わたしたち全員感がある。
その他条例前文を読んで感じたこと、考えたこと(A区とB市の比較等)	
1	A区よりB市のほうが好き。はじめにバシッと言っているから分かりやすい。
2	A区やB市では子どもの権利条例のことをどう告知したのか。このリーダー会議は学校から伝わってきた。せっかく条例ができて知らないままになりそうなので、伝える方法も考えた方がよい。
3	理念条例ということで、具体的に何かにつながることはないかもしれない。作ったことで生活にどのような影響が出るのか疑問に思った。
4	条例の及ぶ範囲が気になる。結局、条例についてみんなが知ってるわけではないし、「そう」「へー」で終わる可能性がある。影響力は小さいのではないかな。
5	人によって解釈が異なるので、踏み込んだ具体的なことを書いても良いのではないかな。
6	大人用だと、子どもにはわかりにくい(漢字とか読めない)。子ども用と大人用で分けて作るのも良いと思う。
7	文章が短いと嬉しい。長いと読む気になれない。
8	個人的に丸っこいフォントの方が読みやすい。
9	大人だけが「こういう環境にしよう」ではなく、「子どもは意見を言います」など、主体性のある文章を入れたい。
10	鍵括弧を使った文章の方がいい。
11	数字を振って箇条書きにするとか、段落区切って短くすると良いと思う。
12	A区はB市よりも一方的な感じがする。いい事ばかり言っている感じがするため、苦労した事例やしてほしくないことももっと明確にすべき。最終的に区からの要求でまとまってしまっているが、もっと一緒に感がほしい。権利であるため、「～して」「～やって」よりも「～すべき」に変える必要がある。
13	B市は可能性を示してから、してほしいことの流れになっていて見やすい。B市の「未来の希望となる種」という比喩が良い。
14	A区は「幸せ」がテーマで、こどものことは「擁護対象」であり、B市は「一緒」がテーマで、こどものことは「対等」であると感じた。両方で目的が違うのでは。
15	子ども向けならA区の真似をして、条例っぽくするならB市の真似をするのはどうか。言葉の使い方に注意した方がいい。
16	誰が読んでも理解できる言い換えが必要なのでは。